



～ きょうだいを育てる工夫 その2・真ん中の子と末っ子 ～

今回は第一子について考えました。今回は真ん中の子と末っ子の育て方の工夫を考えましょう。

真ん中の子である利点は、上のきょうだいをモデルにしたり頼ることができます。また、下の子をお世話したり頼られることで優しくすることの喜びや自信を得ることができます。一方、第一子に比べて親は手を抜くこともありますし、末っ子のように甘えが許されないこともありそうです。親からの注目度が下がる傾向がある分、自分は愛されていないという思いを抱きがちです。そんな時わざと親に反抗的な態度をとって叱られ、いじけるという悪循環におちいる可能性があります。親の都合で年上役割や年下役割を押し付けないように、子どもの様子をよく見てほめてあげ、特に意識的にその子とだけかかわる機会を増やす工夫をしたいですね。

末っ子としての利点は、親が精神的にゆとりある子育てができそうですし、上の子達をモデルに安心して行動することができます。家族皆から愛され大切にされることが多く、年長者のもとで成長して、人との関係を上手に築く能力が身につくでしょう。その分家族全員から先回りして世話を焼かれすぎることがあるので依存心を強めてしまったり、ワガママにつながることもあるかもしれません。子どもの自発性を大事にし、年齢相応のことをさせて失敗も見守っていく姿勢を持ちたいものです。